習志野市国際交流協会

SQUARE スクウェア

季刊会報
第 96 号
2011年12月1日

Narashino International Association (NIA)

◆◆ 特集　姉妹都市 25 周年記念タスカルーサ市訪問 ◆◆

Tuscaloosa Sister Cities Celebrates 25years

"Nurturing Friendships, Uniting Cultures"

「育む友情と文化の共生」

タスカルーサ市における姉妹都市交流 25 周年記念式典で最もエキサイトな行事の一つが、ブラックウォーリア川沿いに建立されました、写真”木の彫刻”のモニュメントのお披露目でした。

モニュメントは地元のケンタック生まれの造形家スティーブ・デイビス氏によって制作されたもので、三枚のオークの木の葉がつながったようすを表した、高さ 15 フィート（約 4.6 m）の鉄製の造形物です。アフリカのガーナ訪問団の方々と習志野市民訪問団の記念写真です。

友情は瞬間が咲かせる花であり、そして時間が実らせる果実である（アウグスト・フォン・コッツェブー）

習志野市国際交流協会会長　　崎　山　征　雄

3 月 11 日に発生した東日本大震災では習志野市でも巨大地震による液状化に襲われ 400 戸以上の市民が被害を受けました。直後にタスカルーサ市から友情と共に丁重な義捐金を頂きました。その後 4 月 28 日にはタスカルーサ市は史上空前の巨大竜巻に襲われ 50 人の死者と多大な被害が発生しました。習志野市でも早速、義援金の募集を始めるとともに、習志野市内の被害状況の深刻さから公職である市長を始めとする議員などの公式訪問団への参加を取り止め、その経費の一部を直ちにタスカルーサ市へ贈呈しました。そのため今回の訪問団は市の職員 1 人と 37 名の市民訪問団で編成された市長、議長などの市の代表者の参加しない異例の周年事業となりました。

しかしマドックス市長をはじめとするタスカルーサ市の皆様はその状況の中で、タスカルーサ市は習志野市との 25 周年記念式典を粛々と実施し、加えてドイツのショーンドルフ市との姉妹都市提携 15 周年を、またガーナのスンヤニ市、テチマン市とも新たに姉妹都市提携、ここにタスカルーサ市を中心とした 4 大陸 5 市の友好の絆という、それはそれは大きな豊かな果実を実らせました。

今回の記念式典はその 5 市がタスカルーサ市に集い「育む友情、文化の共生」を共に祝い、新たな友情の花を咲かせた祭典でした。

タスカルーサ合唱団

初日は 150 年を経たイタリア様式の歴史的建築物、ジェミソンマンションで開かれたウエルカムパーティで、タスカルーサ合唱団のすばらしい歌声の中で夏の夜のタスカルーサを楽しみ味わいました。また館内に展示された記念ボードでは、25 年前、姉妹都市提携当時のデュポン市長、三上市長、20 年前 5 周年式典時の荒木市長などの若々しい写真を懐かしく眺めました。

公式晩餐会はタスカルーサ市郊外の閑静なノースリバーヨットクラブで 25 日の夕方から開催されました。タスカルーサ・シティースクール楽団の生徒の皆さんによる歓迎音楽で導かれた会場で、ウエルカムドリンクでくつろいだ雰囲気の中、各国代表の方々との懇親が図られました。晩餐会には、日本大使館から駆け付けた花谷卓治アトランタ総領事にもお忙しい中ご臨席頂きました。タスカルーサ市おもてなしの夕食の後、今回タスカルーサ市の新たな姉妹都市となったアフリカ・ガーナのスンヤニ、テチマン両市を加えて姉妹都市調印式が行われ、各市が友情を誓い、これからの交流をさらに促進しようと思いを新たにしました。各国の代表による挨拶が行われ、同行した「習志野鼓楽庵」の元禄花見踊りの演奏と、市民訪問団による「さくらさくら」の合奏で公式行事のフィナーレを飾りました。

訪問 3 日目に私たちは、タスカルーサ市役所でマドックス市長から竜巻被害の状況の説明を聞き、バスでその被災地を視察に行きその惨状の被災地とその後 4 ヵ月で、市長と行政が率先して実施した、素早い被災地復旧対応事業などを見てまいりました。

左から花谷総領事、タスカルーサ市長夫妻、スンヤニ市長
ショーンドルフ市長夫妻。後方、左から日向さん、崎山会長

その後、フェアウエルパーティでは 5 市の子供たちの製作したタイル画の展示などもありました。

25 年前に生まれた友情が、今、大きな美しい果実になった事を実感した今回の記念事業であったことを、心からの喜びと共に皆様に報告できる事を感謝申し上げます。

友情と笑顔の夢の祭典

姉妹都市部会長　日　向　洋　美

銀婚式に象徴されるように、欧米では 25 は 50•100 に続く大切な数です。習志野市との姉妹都市提携 25 周年を祝う今回の旅は、タスカルーサ市にとっては同時に姉妹都市委員会発足 25 周年、ドイツのショーンドルフ市との姉妹都市提携 15 周年そしてガーナのスンヤニ市・テチマン市との新たな友好を結ぶ 4 大大陸が集結する大祭典でした。習志野市とショーンドルフ市との提携当初は経済的視野を基にしたものでしたが、今回のガーナとの友好提携は異文化との共生を主にしたそうです。4 月 28 日に全米最大の竜巻を被災したにもかかわらず、マドックス市長がいち早くこの祭典をとり行うことを決定したのは、この 25 周年のイベントがいかにタスカルーサと姉妹都市にとって大切かを語っています。

今回の祭典のテーマは”Nurturing Friendships, Uniting Cultures”（育む友情と文化の共生）でした。到着翌日このテーマで作成された 4 市の名前が刻まれた木の彫刻のお披露目式を始めに公式行事が始まりました。ハイライトのひとつは私達四市からの訪問団が、竜巻で学校が被災して無くなった子供たちを、現在彼らが一時的に通っているマグネットスクールに慰問したことです。

体育館で私達を迎えてくれたのはプレ・スクールの 4 歳児から 11 歳の小学 5 年生までの約 300 人の生徒で、ほとんどがアフリカ系米国人でした。女の子たちの髪は色とりどりのビーズや髪飾りを用い細かく編みあげられていました。子供たちの美しい髪形を見ただけで、彼女たちがどんなに愛されているかが表されているようでした。

学校訪問が決まった六月、子供たちを励ましたいと考え「子供に伝えるクラシック」制作委員会代表の猪口勇氏に英語版 DVD の寄贈をお願いしました。この DVD は、生後 1 カ月で癌にかかり、その後眼球を摘出し現在ウィーンで活躍するピアニスト梯剛之氏が、美しい音楽を通じて子供たちに夢と希望を与える為に制作されたものです。製作費はすべて寄付金でまかなわれ、すでに日本全国の 2 万 3 千の小学校に無料配布されています。

ドイツのバンドの演奏後、子供たちにこのプレゼントの DVD の説明をしてショーンドルフとガーナの 2 市にも DVD を寄贈しました。その後日本組は全員赤の揃いの法被姿で習志野鼓楽庵の 9 名の皆様の「面おどり」に拍子木や鈴で彩りを添えました。またこの日の為に用意した折鶴や折り紙の入った袋を子供たちにプレゼントしました。子供たちの目はみるみる輝き、皆笑顔です。その表情の可愛いこと... その笑顔は私達に肌の色や国境・年齢・性別の垣根を一瞬にして飛び越えさせてくれました。今回のテーマの“育む友情と文化の共生”は笑顔で達成されたのです。校長先生の「竜巻の後、子供たちがこんなにうれしそうな顔をしたのは初めて。ありがとう。」の言葉は私達にとって一番の贈りものでした。最後は子供たち全員と握手・ハグ !!!

最後に多大な竜巻被災を乗り越えて温かく私達を受け入れて下さったタスカルーサの関係者の皆様と、それぞれに大切な民間外交を果たして姉妹都市との友好を深めて下さった市民訪問団の皆様に心から感謝いたします。訪問中よりタスカルーサの方々から日本組には幾度となく称賛のお言葉をいただきました。

“Tuscaloosa News”に掲載された訪問団記事 ＝ タスカルーサ国際姉妹都市委員会代表リサ・キーズ氏提供 ＝

Sister Cities delegates converge on Tuscaloosa

Nearly 100 delegates from three different places around the world converged in Tuscaloosa Tuesday, beginning a nearly week-long celebration of international friendship hosted by the Tuscaloosa Sister Cities Commission.

Tuscaloosa Sister Cities is part of the nationwide non-profit organization Sister Cities International, said Lisa Keyes, executive director for the Tuscaloosa commission.The organization seeks to foster international diplomacy and unite people from different communities and cultures.

Delegates from Tuscaloosa's three sister cities, Narashino, Japan; Schomdorf, Germany; Suyani-Techiman, Ghana, all made the long trip to Tuscaloosa,Keyes said. Suyani-Techiman are two Ghanaian cities roughly 40 miles apart that are working as one sister city.

This year marks the Tuscaloosa Sister Cities Commission's 25th anniversary, Keyes said.

Delegates are composed of city leaders and people who volunteer for the program equivalent in their home countries, Keyes said.

Of the 84 delegates, 40 are from Japan, 35 from Germany, and nine are from Ghana.

"We're all more alike than we are different." Keyes said.

Sixty of the visitors are staying with host families in Tuscaloosa, Keyes said.

Dr.Charles Nash, vice chancellor for academic and student affairs at the University of Alabama, is hosting Quasi Abbabio, the mayor of Sunyani, Ghana.

Nash said he's been pleased with the program since it began in 1986, and he's particularly happy about the most recent addition.

"The first two sister cities had a lot to do with business and economic relations, which is important, but this relationship with Ghana is our first that is purely cultural, " Nash said.

Culture is something you can only leam from interacting with other people, Nash said.

"It's most important for children, because their world is going to be even more connected than ours. They're going to need to understand these different cultures," he said, adding that he hopes Tuscaloosa will consider adding a sister city in Latin America.

Casey Lineberry, 41, of Tuscaloosa is hosting his first delegate from Japan in his home this week, and is already certain he wants to visit Japan.

"Tuscaloosa is great. l wouldn't trade it for anything, but it isn't all there is," Lineberry said.

Communing with people from other countries and cultures "actually makes the world seem not so big," he said.

Narashino was Tuscaloosa's sole sister city for 10 years until Schomdorf was added in 1996, Keyes said.

In honor of the landmark anniversary and adding a new sister city to the program, the Sister Cities Commission will rename itself Sister Cities International, Keyes said.

The commission has had its longest and most storied relationship with Narashino, Keyes said.

After the earthquake that devastated Japan in March, the Tuscaloosa Sister Cities commission raised $10,000 to send to Narashino, Keyes said.

"The really ironic thing is we wired that check to them at noon on April 27," Keyes said.

Hours later, a deadly tornado decimated parts of Tuscaloosa.

Within a couple of months, Narashino had already returned Tuscaloosa's favor by donating more than $20,000 for tornado relief and they're still raising money, Keyes said.

Schomdorfs Sister City organization has donated nearly $20,000 for tornado relief as well, Keyes said.

On Wednesday, the group commemorated the 25th anniversary by unveiling a permanently installed sculpture at Riverfront Landing near the Bama Belle riverboat dock, Keyes said.

The sculpture depicts a series of interlocking trees meant to signify the commission's commitment to nurturing fiiendship and uniting cultures.

Delegates were given a tour of Tuscaloosa on Thursday that included such highlights as Bryant-Denny Stadium and the recently erected Tuscaloosa Amphitheater, Keyes said.

Friday will culminate in a tailgate party at Government Plaza downtown for the delegates and 350 other guests, mainly city leaders and past and present Sister Cities volunteers. Keyes said.

The delegates will return home on Sunday.

写真左から：リサ・キーズ氏、日向 NIA 姉妹都市部会長、
﨑山 NIA 会長、神力さん（訪問団員）

大災害を乗り越えた心温まる交流

市民訪問団実行委員　　山　口　大二郎

3.11 の震災、津波、福島原発事故があってから約１ヶ月後、タスカルーサは強烈な竜巻に襲われました。不幸にも日本とほぼ時を同じくして大災害に見舞われました。この大変な時期にタスカルーサ市は早期に決断を下し、予定通りに 4 都市を招待し 25 周年行事を実施しました。国際交流を重視した市政があったからだと思います。規模を縮小してという話も有りましたが、用意された日程は心温まる配慮を感じるものばかりでした。陰になり日向になりこの事業を成功させてくれたのはリサ・キーズ氏をはじめボランティアとして協力してくれた市会議員、ホストファミリー、それに多くの市民の皆様でした。

日本よりの長旅を終えてようやくたどり着いたジェミソン・マンションでは、コーラスグループの美しい歌声に迎えられた歓迎会で、最初のサザンホスピタリティを感じた瞬間でした。翌日、ブラック・ウォーリア川沿いの船着場前の広場では、ハイライトの一つ 4 カ国 5 都市の「育む友情と文化の共生」のテーマを 3 つの樫の葉で表したモニュメントの除幕式が行われました。マードック市長の挨拶は「この彫刻は姉妹都市の友情に根付いた強い絆を象徴したもので、これからお互いに手を携えて世界平和に貢献しよう」という力強いものでした。

タスカルーサ市を支える柱の一つは 1820 年設立のアラバマ大学です。２万人を超える大学生と 9 万３千人を収容するブライアン・スタジアム持つキャンパスは、市の中心に位置しており 100 万坪の広さです。フットボールシーズンには人口の倍のファンがスタジアムに集まってきます。大学は産学協同研究にも力を入れビジネス界にも多くの優秀な人材を送り込んでおります。

学園都市のイメージは強く、博物館、美術館などの文化施設の数の多さを見れば行政が如何にこの方面に力を入れているか窺い知ることが出来ます。その一つが南部インディアンが残した土塁、ピラミッドが在る広大なパークに建てられたマウンドビル州立公園博物館です。ここでの発掘物やインディアンの儀式などの展示は興味をそそるものでした。見学後は裏手の公園が見渡せるウッドデッキのテラスで、ホストファミリーも参加しビールやワインを飲みながら、和やかな語らいのひと時を過ごしました。

最終日は市庁舎裏の広大なガバメント・プラザでテール・ゲイトパーティが開かれました。広場の中心にはイベント用の舞台が設けられており、ドイツのショーンドルフの高校生のバンド演奏はボーカルを入れムードを盛り上げてくれました。ボランティアの方々が用意してくれたハンバーグと飲み物を持って思い思いの席で交流を図りました。昨年習志野でホームステイしたタスカルーサの生徒達に会って旧交を温める事が出来ました。

もう一つのイベントは壁画のお披露目式でした。姉妹都市の学生が「親交・美・希望・幸福」をイメージして描いた絵がタイルに焼き付けられ、世界平和を掲げた 25 周年の記念として壁画となったものです。選ばれた学生達はそのお披露目式に出席し感動しておりました。

今回の旅行では各国多くの参加者とコミュニケーションが出来ました。外国の異なる文化やそこに住む人と触れ合い、友情を醸成していくことは、単なる観光地巡りより意義深いことです。これからも国際交流の輪が益々広がっていくことを願っております。

将来、国際的な活動がしたい

根　　太　一（中 2）

僕が 6 年生の時に描いた絵が、タイル画となってタスカルーサにずっと掲示されることになったのは、とてもうれしいことです。この絵がきっかけで今回タスカルーサを訪問することが決まった時、ホームステイは僕にとっては大冒険で、とても不安でした。

ホストファミリーのハミルトンさんは、僕にとても気を遣ってくれました。例えば、僕が野球をやっているのを知ってキャッチボールをしてくれたり、わからない言葉は一生懸命に伝えてくれました。ハミルトン家とはこれからもずっと連絡を取り続けたいと思います。

この訪問で中村一座のみなさんと一緒に、「さくらさくら」を締太鼓で演奏しました。出発前に稽古をしましたが、その中で挨拶や作法を教えてもらったり、歴史ある日本の楽器に触れることができました。僕にとって国際交流は日本の文化を知ることでもありました。

この大冒険を通して、今までなかった感情が生まれました。それは「国際的な活動がしてみたい。海外の色々な人たちと話がしたい。」ということです。僕はまだ英語が全然話せませんが、聞きとることは少しできました。だからもっと話せるようになって、またハミルトンさんを訪ねてみたいです。そして、この交流でNIAや国際的な仕事にも興味を持ちました。

印象的だったアラバマ大学

長　尾　真　帆（高 1）

今回のタスカルーサ訪問では、沢山の事を学ばせていただきました。日本と違うアメリカの街並み、日本語とは違う言葉をしゃべる人々。どれもとても新鮮でした。また、タスカルーサの素敵なところにも沢山案内していただきました。中でも一番印象に残ったのはアラバマ大学で、赤と白の印象的なアラバマ大学のロゴやフットボールの掛け声が今でも鮮明に蘇ってきます。

タイル画のお披露目パーティでは、自分の絵が綺麗にタイルにプリントしてあり、あんなに立派な場所に飾ってもらえてうれしく思いました。パーティでは一言マイクを持ってコメントをしましたが緊張してしまってガチガチでした。他の三人がハキハキ話していてとても驚きました。本当に貴重な体験ができてとても良かったです。できればまた参加してみたいと思います。

タスカルーサの信号機にビックリ

平　林　愛　海（高 1）

以前から外国での生活にとても興味を持っていたので、この夏のタスカルーサ訪問はまたとない良い機会だと思い参加しました。ですから滞在中はホームステイを希望し、それが叶い本当に嬉しかったです。今回初めて知り合った飯田沙南さんと、一緒のステイ先で不安もありましたが、そんな不安もすぐに吹き飛び、楽しく、様々な発見があった 4 日間でした。

ホストマザーであるメアリーは背が高く、旦那さんのペリーが小さく見えました。家はさすがアメリカ！という感じで、天井も高く、広々とした造りでした。用意された部屋も、我が家とは比べ物にならないほど広く、大きなベッドに感激しました。なにより嬉しかったのは、ダラスというゴールデンレトリーバーがいたことです。人懐こく、利口な犬でたくさん遊びました。朝早く起きて湖に連れて行ってもらい、カヤックに乗ったことも忘れられません。とても奇麗な場所で、完璧な朝でした。ペリーが作る朝ご飯、本場のマクドナルドの朝食メニュー、Summer Snow というシャーベットアイス、お洒落なカフェで飲んだバブルティー、などなど、美味しいものもたくさん食べました。

初めての海外旅行での最も興味深い発見は、信号機です。日本で目にする信号機は固定されているにもかかわらず、タスカルーサの信号機は紐にぶら下がっていることが不思議に思いました。その場で理由を聞いてみればよかったと少し後悔しています。

日本とアメリカだけでなく、ドイツとガーナの方々とも交流できた 25 周年記念の訪問に参加することができて、私はとても幸運でした。この経験を今後に生かすことができればと思います。

訪問学生による別れの演奏

夢叶う！ 50 年越しのペンパルに初めて会って

日　野　陽　子

今回訪問団に参加して 8 月23日から30日までの、たった 8 日間の短いアメリカの旅でしたが、私にとって沢山の想い出が残ったすばらしい旅になりました。

初めてのホームステイではアメリカ人と結婚されたマリ・マックファーソンさんに愛澤靖子さんと一緒に大変お世話になりました。日本を離れて何十年も経つのに日本女性の細やかな心遣いを忘れず、温かく優しく、それでいて日本語を話されない時は容姿も物腰もすっかりアメリカの女性のように思え、本当に素敵な女性でした。

不安と緊張の空の旅

4 日間のタスカルーサ訪問を終えて私達はネバダ州ラスベガスに 2 泊しましたが、中の 1 日がフリーでした。若い皆さん、「ペン・パル」を御存知ですか？　私の女学生時代に大変流行していたのです。私も 17 才の時に英語の先生に勧められてアメリカの女性と文通を始めました。その頃はアメリカに旅行するなど夢のまた夢でした。英語のお勉強になるからとクラス全員が文通を始めたものです。殆どの生徒が 3 回位で終わったようですが、私は相手の女性が本当に誠実な方で半世紀を超えた今も続いています。でも 1 度も会った事がなかったのです。

ソルトレークシティーの LDS 教会

彼女はユタ州のソルトレークシティに住んでいます。ネバダ州のお隣ではありませんか。もしかしたら会えるかも・・・調べると飛行機で 1 時間半で行けます。日帰り出来る！　彼女（ジャネット・トーマス）にメールすると想像以上の喜び方で是非ぜひ会いたいと言うお返事でした。

それでも会うまでは私の乏しい英語力で 1 日持つだろうかと何回もやめようかなと思ったものです。

朝早く起きて一人で飛行機に乗り、ソルトレークシティ飛行場に着くまで胸がドキドキして我ながら気の小ささにうんざりしました。

空港に降りるとジャネットがご主人と大きな「YOKO」のボードを振っていました。それを見た瞬間私の緊張がスッと消えたのです。敬虔なクリスチャンが多いこの町の日曜日は店が殆ど閉まっています。教会に行った後は家族で静かに過ごすそうです。それで私も有名な LDS 教会に連れて行って貰いました。偶然 300 人位の素晴らしい混声合唱を聴く事ができました。中を案内して頂きましたが、クリスチャンではない私にもその荘厳な雰囲気が伝わってきました。

ガラスケースの中に大感激

2002 年の冬季オリンピックの跡地や美しい公園をまわっていよいよジャネットの家訪問。静かな郊外の大きな 2 階家で広ーい庭・・・う～ん　狭い我が家にはお呼び出来ないな～なんてちょっと思いました。お昼をご馳走になった後彼女の花壇とご主人の野菜畑を案内して貰っていると、近くにお住まいの娘さんがお孫さんを連れてきました。4 歳のマジソンはキティちゃんが大好きでプレゼントに大喜びして部屋中走り回っていました。そう言えばマリさんのお孫さんはポケモンが大好きでしたっけ。日本のキャラクターは世界中に浸透しているのですね。そして「YOKO のコーナーを見て」と言われた時は本当に感激しました。ガラスケースの中には私が贈った品々が大切に飾ってあったのです。夢のような 1 日が終わりました。温かく歓迎して下さったマックファーソンご夫妻とトーマスご夫妻に心からお礼申し上げます。そしてこの旅行でお世話になった皆様、本当に有難うございました。

ジャネットと娘さん家族

ロシア料理教室に参加して

鎌　田　庸　子

今回のロシア料理の先生は、日本語教室で学習されている山中イリーナさんです。

ロシア料理の代表といえば、皆さんは真っ先にボルシチやピロシキなどを思い浮かばれると思いますが、教えて頂いた料理は日本人の口にもピッタリのロシアの家庭料理を3種類、「イエロースプリットスープ」「イカと玉ねぎの炒めかけご飯」「ブルーベリークッキーケーキ」でした。

「イエロースプリット」はグリーンピースを干したもので（手に入らなければ普通のグリーンピースでも可）、いろいろな野菜が入っているのでヘルシーでカラフルなスープです。

「イカと玉ねぎの炒め物」は細切りにしたロールイカと、よく炒めた玉ねぎに塩胡椒とシンプルな味付けなのに、玉ねぎの甘みとイカの柔らかな歯ごたえが絶妙で、予想以上（失礼！）の美味しさに、皆「わぁおいし～い！これ簡単でいいわね。今度家でも作ってみるわ」と口々に感激していました。

「ブルーベリークッキーケーキ」は、サックリしたバター風味のタルトの上に、ブルーベリーの酸味と甘いメレンゲのフィリングが上品に焼き上がり、思わずカロリーも忘れてペロリと平らげてしまうほどの美味しさです。

今回はどこでも手に入りやすい食材を使って、簡単で美味しく作れるメニューをご紹介いただいたので、私もぜひ家族のために復習して作ってみようと思っています。山中イリーナさんを始めスタッフの皆さん、どうも有難うございました。

2012年（平成24年）さくら祭
アラバマ大学主催俳句コンテスト作品募集

今回のテーマは「reliance」（信頼）です。このテーマで俳句をつくり一人一点応募してください。

応募要領：応募用紙はNIA事務局又はNIAのホームページから入手してください。

応募締切：2012年1月20日（金）までにNIA事務局へ提出してください。

応募部門：小学校1年生～3年生、小学校4年生～6年生、中学校・高等学校、成人の部の4部門です。

表　　彰：入賞作品には賞状が授与されます。また、アラバマ大学副学長より記念品が贈呈されます。

アメリカから送られてきたパンフレット

スクウェア　第96号

発行　2011年12月1日

習志野市国際交流協会

発行責任者　崎　山　征　雄
編集責任者　髙　山　進三郎

〒275-0016
千葉県習志野市津田沼5-12-12
サンロード津田沼4F
TEL／FAX　047-452-2650
http://www.nia08.com/
〈Eメール〉nia@seaple.ne.jp